

追悼の辞

商学部長 岡 田 千 尋

「体調を崩したから早めに帰ってきたよ」、そう連絡を受けたのが2010年3月上旬のことでした。聞けば、研修先の台湾で体の変調に気づき、診察を受けたところ「肺ガン」ということだったが、あまり信用できないので日本で再度検査してもらうために3月末の帰国予定を切り上げたとのことでした。

日本での検査結果は台湾での結果と変わることはなく、以後勤務をつづけながら治療を行うという、ご本人には過酷なことであったであろうと推察できますが、病気をあまり苦にせず、残された人生を若い後輩教員や学生への指導に精力的に取り組まれていた姿が、今、懐かしさとともに思い出されます。

尾崎都司正先生は「経営情報」担当の教授として2001年4月に本学商学部に赴任され、経営情報システム論をはじめ情報関係の科目を担当いただいたが、いずれの担当科目においても、実業界からの転身であったこともあろうが、理論だけではなく実践、実務を重んじた「社会における即戦力」を意識した講義等を行ってこられました。特に学生とは年々年が離れていく中で、学生たちの考え方や意識、行動が変化していく中でも、常に学生たちの中に飛び込んで、彼らと真剣に向き合ってこられた姿が思い返されます。こうした先生の指導方針は大学院においても変わらず、その時々の問題を抱える院生と夜遅くまで解決方法や善後策を探るなど、学生・院生たちとともに教育、研究生活を過ごしてこられました。

さらに、若手の教員に対しては国内にとどまるだけでなく積極的に海外へも目を向けさせるべく、国際学会での発表や論文集に投稿するよう指導するなどの配慮もして頂きましたお陰で、彼らも順調に成長してくれてきています。

また、学部、大学院のカリキュラム改革などにも積極的に関与され、特に大学院のソリューションコースの設置においてはほとんど一人で取り纏めたといってもいいくらいの働きを見せていただきました。そのおかげで今は大学院経営政策専攻の看板コースとして多くの社会人院生を受け入れるまでに成果を上げてきています。

我々がお付き合いさせていただいたのはわずか10年余であったのですが、もっと長くお付き合いさせていただいたような気がするほど、商学部の中に溶け込んでおられたように思います。まだまだ色々ご教示いただきたいことが山ほどあったのに、もうそれも叶わなくなってしまいました。我々は先生からお教えいただいたことを深く心に刻み、今後とも学部が発展するよう頑張っていきます。どうぞ見守っててください。